

引用文献

1. 福井栄一郎『フランス歌曲について』, 芸術的世界の論理, 1.4~15 P.105 京都大学美学美術史学研究会編, 創文社, 昭和47年
2. 新田博衛『詩と音楽』—比較美学的考察, 理想 1.14~17, P.122 No.528 理想社 1977.5
3. 村上菊一郎『よき歌』 フランス文学辞典 1.3~6 P.782 白水社 1974

参考文献

- ・譜例は GABRIEL FAURÉ 'La Bonne Chanson' Op.61 J. HAMELLE J. 3625-3633 H
- ・原詩は VERLAINE 'OEUVRES POÉTIQUES COMPLÈTES' P.133~157 Y. G. LE DANTEC 1962
- ・VLADIMIR JANKELEVITCH 'FAURÉ ET L' INEXPRIMABLE ' DE LA MUSIQUE AU SILENCE P.128~151 PLON 1974
- ・エミール・ヴェイエルモーズ『ガブリエル・フォーレ』人と作品 家里和夫訳 P.V~VII 音楽之友社 昭和47年
- ・ROBERT ORLEDGE 'GABRIEL FAURÉ ' P.77~85 EULENBURG BOOKS 1979
- ・NORMAN SUCKLING 'FAURÉ' P.72~77 GREENWOOD PRESS, 1979
- ・FRANÇOISE GERVAIS 'ÉTUDE COMPARÉE DES LANGAGES HARMONIQUES DE FAURÉ ET DE DEBUSSY' P.17~90 LA REVUE MUSICALE 1971
- ・Ch.ケクラン『和声の変遷』 清水脩訳 音楽之友社 昭和56年
- ・松平頼則『近代和声学』 音楽之友社 昭和44年
- ・F. GERVAIS Op. cit, EXEMPLES MUSICAUX P.7~129
- ・鈴木信太郎『フランス詩法』下 P.200~216 白水社 1970

譜例19



譜例20



III お わ り に

この歌曲集には何と多くの独創的な音楽語法が用いられていることか。何とその語法が綿密に組立てられ、変容され、交響的に統一されていることか。5つのテーマA, B, C, D, E, を巧みに織り込んでの変化記号の使用—非終止的解決, 平行和音, バシヤスパティ, アルペジオ, 旋法, 経過的転調, プラガル終止がゼクエンスされ, 時にはアラベスク模様で, 時にはモザイク模様で精密に組み合わせられている。これらはすべて, ベルレーヌの象徴詩のもつ陰影—響に, フォーレの喚起されイメージ化された音ともはやかつての単調な形式や調性に縛られることなく, 通作歌曲のもつ音の流れ(メロディー)となって精緻に確立されている。まさにフォーレ荘年期の傑作, 彼独自の「音の世界」, 近代フランス歌曲 *Mélodie* といえる。

譜例18



第9曲『冬が終った』L'hiver a cessé は詩集の第21番, 10音綴, abab (fmfm) の交韻, 4行を1節とする5節(第2節省略)で構成されている。

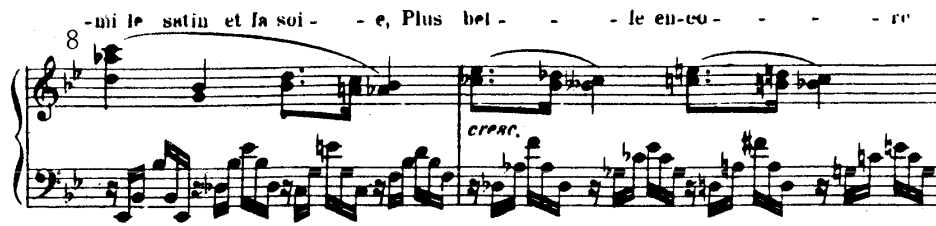
L' HIVER a cessé : la lumière est tiède
Et danse. du sol au firmament clair.
Il faut que le coeur le plus triste cède
À l'immense joie éparse dans l'air.

冬が終った、光は心地よい
そして踊る、明るい蒼空の下の大地で。
もっとも悲しい心は譲らなければならない、
大気に限りなくあふれる歓喜に。

以下省略

曲は Allegro ♩ = 96 変ロ長調 C。この曲は歌曲集の終曲として交響的に、テーマD, テーマE(第6曲), 第7曲の3つのリズム音型 $\frac{7}{3}$ $\frac{3}{3}$ $\frac{3}{3}$ と $\frac{3}{3}$ $\frac{3}{3}$ $\frac{3}{3}$, リディアのテーマBとアラベスク $\frac{3}{3}$ $\frac{3}{3}$ $\frac{3}{3}$ (第2曲), 最後の, Andante Moderato $\frac{9}{8}$ の部分のテーマA(第1曲)と L'istesso tempo $\frac{3}{4}$, $\frac{9}{8}$ で構成されている。曲は前曲の終りの和音(Sol-I)の第5音 ré(高音部)からテーマDが変ロ長調の第3音 réとして軽やかに, あたかも大気が, 大地が暖まり, 氷雪が氷滴となって溶け落ちる心象を醸しだすように始まる(譜例19)。第5小節からテーマDが2小節続き, 第8小節から3小節間伴奏の低音と高音とが半音階 $\begin{matrix} \text{mi} \rightarrow \text{fa} & \text{fa} \# \rightarrow \text{sol} & \text{sol} \# \rightarrow \text{la} & \text{sib} \rightarrow \text{si} & \text{do} \\ \text{la} \rightarrow \text{lab} & \rightarrow \text{sol} & \rightarrow \text{solb} & \rightarrow \text{fa} \end{matrix}$ で進行する間に, 第1句「冬が終った」と力強く歌われる。第4句「限りなくあふれる歓喜」では低音に mib ré do sib lab sol solb fa と順次下降し, 第1節を終らせる語「大気」が主和音に落着く。第10句終りから第12句初めにかけて, Réb₇ → Solb₇ Lab₇ Sib₇ Do₇ Réb₇ → Solb と七の連続が用いられ, 第15句では経過的に Do# に転調し, 第16句は原調 Sib に戻る。第19句の語「魅了する」では歌がテーマBの断片で新鮮さを拡大する。同句後半で伴奏が第1曲以来用いなかった休符を用い, 効果的に感嘆詞「おお,」を dolcissimo で più lento に歌わせる。第20句「この幻想と」でテーマAがノスタルジックに表現し(譜例20), 同句「この理性」でブラガル終止させる。

譜例16



第8曲『そうですね ?』N'est-ce pas ? は詩集の第17番, 12音綴, テルザ・リマ, 6 節 (ただし, 第2, 3, 6 節を使用) とし行から構成されている。

詩 8.

N'est-ce pas ? nous irons, gais et lents, dans la voie

そうですね? 陽気にゆっくり行こう

Modeste que nous montre en souriant l'Espoir,

ぼくちに微笑み示す希望のつつましい徑を、

Peu soucieux qu'on nous ignore ou qu'on nous voie.

人に知られたり見られたりする心配もなく。

以下省略

曲は Allegretto moderato $\text{♩} = 92$ ト長調 $\frac{2}{4}$ 。A 部の飾りけのないアルペジオ, $\text{♩} \text{ ♩} \text{ ♩} \text{ ♩}$ B 部のバルカロールのリズム $\text{♩} \text{ ♩} \text{ ♩} \text{ ♩}$, B' 部, A' 部と B' 部 (Coda) で構成されている。第2 節後 (第14, 15 小節) に, 第7 句の語「愛」, 「真暗な」, 更に第8 句の語「呼吸する心」, 「安らかな」にテーマ C が変形され現われる。第31 小節からはテーマ B の断片 (譜例17) が5 小節に渡って続き, 七の和音の非終止的解決 $\text{Fa} \sharp_7 \text{ Sol} \sharp_7 (\text{Lab} \sharp_7) \text{ Sib}_7 \text{ Do}_7 \text{ Do} \sharp_7$ を1 音ずつ順次上行させる。更に第9 句後半「夕べに歌う」ではテーマ C の下降型が, 順次上行する和音 $\text{Ré}^1 \text{ Mi}^3 \text{ Fa}^1 \text{ Sol}^3 \text{ Lab}$ 上に奏され, 静かな夜の帳が下りるのを暗示させる。第57 小節 (A 部) 第18 句の語「子どものような」から第19 句「純粋に愛し合う」の4 小節 (譜例18) で, 九の和音 $\text{Fa} \sharp_9 (\text{Solb}_9) \text{ Lab}_9 \text{ Sib}_9 \text{ Do}_9$ が順次上行ゼクエンスされ, 静かに純粋な愛を高めてゆく。

譜例17



Ré₇ Lab₇², Lab₇³ Fa₇ Fa₇ Dob₇³, Dob₇³ Lab₇ Lab₇ Do の連続, 更にC'部の第16句の語「陽気に」では、減3和音を巧みにモザイク模様でゼクエンスさせ、同句後半の語「きらめく」ではバシヤスパイが用いられる。D部は最終句「ほら、黄金の太陽が」のクライマックスに向けて力強くテーマEを歌わせる。

譜例14



譜例15




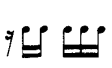
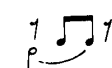
第7曲『そう、夏のある明るい日に』Donc, ce sera par un clair jour d'été は詩集の第19番, 10音綴, abba(mffm, 第2節以後mfの順序が入れ替る)の抱擁韻, 4行を1節とする3節で構成されている。

詩7.

DONC, ce sera par un clair jour d'été :
Le grand soleil, complice de ma joie,
Fera, parmi le satin et la soie,
Plus belle encor votre chère beauté ;

そう、夏のある明るい日に
大きな太陽が、ぼくの喜びに加担して、
サテンと絹との間で、
あなたの優しい美しさを更により美しくするだろう、

以下省略

曲は Allegro non troppo ♩ = 92 変ロ長調 C。前半の明るく躍動感あふれる上行型アルペジオ  と,  上のテーマEの部分, 後半の Morto più lento ♩ = 72 のゆるやかな切分音のアルペジオ  上にテーマCが歌われる部分で構成されている。前半第5小節(第1句後)に第2句の語「太陽」, 「ぼくの喜び」ではテーマEが奏され, 更に6小節に渡ってゼクエンスされ, 特に第3句の語「絹」第4句の語「更に美しく」で九と七の和音の非終止的解決の連続 Do₉³ Sib₇³ Réb₉³ Dob₇³ Ré₉³ Do₇³ の間に, 高音が ré mib mi と半音ずつせり上がる(譜例16)。更にこのテーマは第12, 18, 19小節に頻繁に現われる。後半の第3節第9句「夕べが訪れ, 大気が鎮まると」からはバルカロールのリズムに伴奏高音がゆったりとした大きな弧を描きながら, 第11句「星星のかすかな瞬き」, 更に第12句「優しく恋人たちに微笑む」へ fa # mi ré do sib lab sol fa と5全音を含みながら下降型で, 静かに夜が忍びよるのを暗示させる。

譜例11



譜例12



譜例13



第6曲『君が消えゆく前に』 Avant que tu ne t'en ailles は詩集の第5番, 7音綴と3音綴(各節第3句), abab(fmfm) の交韻, 4行を1節とする5節で構成されている。

詩6.

AVANT que tu ne t'en ailles,	君が消えゆくまえに、
Pâle étoile du matin,	朝の青い星よ、
— Mille cailles,	— 千千の鶉は
Chantent, chantent dans le thym. —	歌う、たちじゃこう草のなか —

以下省略

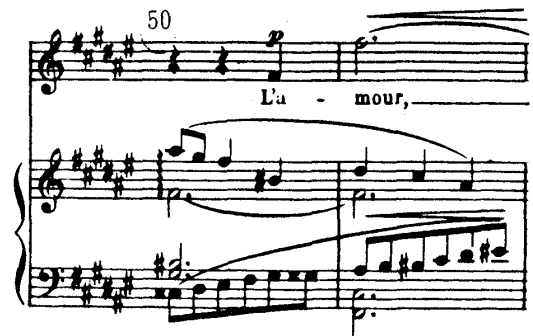
曲は Quasi Adagio ♩ = 68 変ニ長調 $\frac{3}{4}$ 。A部のゆったりした ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ と, B部の Allegro moderato イ長調 $\frac{3}{4}$, ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩ ♩, テーマD(譜例14, Bはロ長調, Bは ♩ ♩ ♩ ♩ ♩) が3度くり返された後, C部の低音のアルペジオ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ 上に ♩ ♩ ♩ ♩ ♩, 次に低音の ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ 上に切分音 ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ が, 更にD部の原調に戻り ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ 上に ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ (テーマE, 譜例15) で構成されている。A部は夜明けを心像させるようにテーマAの断片が順次進行し, B部(B部はロ長調)はI¹にIII⁵がブロードリーし(譜例14), テーマDが対照的に躍動感あふれるリズムで反復される。C部の第13句「ぼくの思いを輝らす」では七の和音 Fa³ Ré₇

(譜例9)が、曲りくねった道で出口を見失ってさまよう苦悩を心象させる。第12句「愛、心地よい勝者」では愛と憧憬とが絡み合うかのように、テーマAとテーマBが誤まれる関係一半音階の対斜(譜例10)で描かれる、第13句の語「喜び」では3連音符が旋回し舞い上る。

譜例8



譜例10



譜例9



第5曲『ぼくは実際、恐ろしいぐらいです』J'ai presque peur, en vérité は詩集の第15番、8綴、abba (mffm, 第2節以降 mf の順序が入れ替る) の抱擁韻、4行を1節とする6節で構成されている。

詩5.

J'AI presque peur, en vérité,
Tant je sens ma vie enlacée
À la radieuse pensée
Qui m'a pris l'âme l'autre été,

ぼくは、本当に恐ろしいのです
虜にされたぼくの命を感じたから
輝かしい思いに
ある夏ぼくの魂をとらえてしまった、
以下省略

曲は Allegro molto ♩ = 152 ホ短調 C。前半のテーマAのシンコペーションのリズム(譜例11)と、後半の同名長調のアルペジオ(譜例12)から構成される。第1節後に伴奏高音部が接続句として譜例11の変形を *espressivo* に奏す。第8句「あなたを愛し喜ばれること」にテーマBの断片が伴奏内声に1音ずつ上行しながらゼクエンスされる。再び接続句は第2節後の伴奏高音に異名同音が用いられ、更にまた同句は第4節後に同名長調で変形され奏される。後半の第18句「将来がぼくを暗くさせる」から第19句へかけて、七の和音が第5音を半音上げながら1音ずつゼクエンスされる。第24句「ぼくはあなたを愛す」では情熱的な上行型アルペジオの伴奏にテーマCを歌わせながら(譜例13)、更に後半句「ぼくは君を愛す」で軽やかにプラガル終止する。

譜例 5



譜例 6



譜例 7



第4曲「ぼくは不実の道を歩んでいた」J'allais par des chemins perfides は詩集の第20番, 8 音綴, aba(fmf, b は次の詩節の奇数句と押韻する) のテルザ・リマ Terza- Rima, 4 節と 1 行から構成されている。

詩 4.

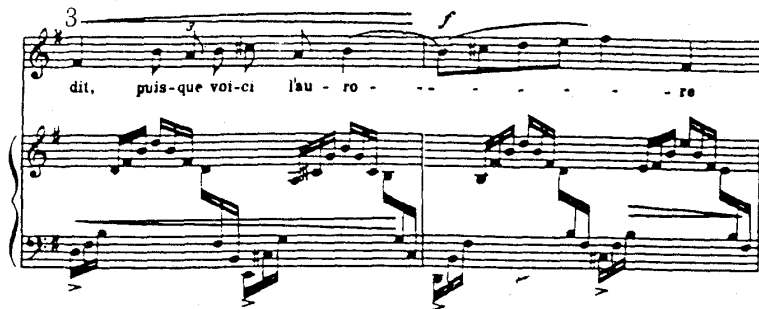
J'ALLAIS par des chemins perfides, ぼくは不実の径を歩んでいた、
Douloureusement incertain. 苦しく当てにならない。
Vos chères mains furent mes guides. あなたの優しい手が僕の道案内だった。

以下省略

曲は Allegretto quasi Andante ♩ = 112 嬰へ短調 $\frac{3}{4}$ 。前半のマーチ風のテーマAの断片（譜例 8）と、後半の un poco più mosso, 同名長調のテーマAとテーマBとが、伴奏の高音と低音に交互に現われる（譜例10）部分から構成されている。第3句「あなたの優しい手が、ぼくの道案内だった」ではテーマBの断片を伴奏高音低音で変化させながら、ノスタルジックに上行する。第10, 11句「ぼくの恐れる心, 暗い心は, 悲しみの道で唯泣いていた」の句跨ぎで, 減七と九の和音の非終止解決の連続

して進まぬ道程を揺するかのよう」で七の和音の非終止的解決を連続させる。第28句からはこのリズムが祈りを暗示させ、「楽園」Paradie - 原調を数拍のうちに出現させる（譜例4）。

譜例3



譜例4



第3曲『白い月は森に照る』La lune blanche luit dans les bois は詩集の第6番、4音綴、ababc c (fmfmf f) の交韻と平韻による混淆韻、6行（韻はむしろ4行と2行形）を1節とする3節で構成されている。

詩3.

⌒ A lune blanche
Luit dans les bois ;
De chaque branche
Part une voix
Sous la ramée...

白き月は
森に照る、
枝枝は
声を発する
小枝の下で

O bien-aimée.

おお、恋人よ！

以下省略

曲は Andantino $\text{♩} = 76$ 嬰へ長調 $\frac{9}{8}$ 。前半のアルペジオと、後半の $\frac{3}{4}$ 。リディアのテーマBの断片から構成されている。前半の伴奏アルペジオは第1句の語「照る」で、月の光に木木の葉が細く揺れて浮き上がるのを暗示させるかのよう、第3、7音が半音下がるロクリア旋法を効果的に用いている（譜例5）。第5句では伴奏高音にテーマBの断片が現われ、第6句「おお、恋人よ」では歌が官能的に第1節をまとめている。第2節は再び主和音のアルペジオに戻り落ち着く。しかし第2節をまとめる第12句「夢みよう、その時だ」では再び官能的に歌わせながら、伴奏旋律に夜を暗示する下降型のフレーズが忍びよる（譜例6）。やがてこのフレーズはテーマBを供って、第17句「星が光る」を幻想的にヒンドウのカルナティック旋法第64番のバシヤスパティで現わす（譜例7）。最後の第18句「それは恍惚の時」ではテーマAとテーマBの断片が、伴奏低音と高音に変化記号を巧みに用い、交互にからまり解け合う。

リズムが4度くり返される。B部では再び角笛の音がゼクエンスされ、A部の第19句「カロリング王朝風の名に」では第4句「優雅さと愛との」の伴奏音型で歌われる。後奏はヒポリディア旋法の明るく軽やかなプラガル終止が用いられている（譜例2）。

譜例1



譜例2



第2曲『暁が広がり』Puisque l'aube grandit は詩集の第4番、12音綴、abab(fmfm)の交韻、4行を1節とする7節（ただし、フォーレは第1、4、6の3節を使用）で構成されている。

詩2.

PUISQUE l'aube grandit, puisque voice l'aurore,

暁が広がり、曙が来ようとしているので

Puisque, après m'avoir fui longtemps, l'espoir veut bien

久しくぼくから逃げていた希望が、呼び懇願する



Revoler devers moi qui l'appelle et l'implore,

ぼくのところへ飛び帰ろうと、望んでいるので、

Puisque tout ce bonheur veut bien être le mien,

この幸福がすべてぼくのものになるのを願っているので、

以下省略

曲は Allegro ♩ = 112 ト長調 $\frac{4}{4}$ 。前半の  のアラベスクと、後半の  のアルペジオから構成されている。前奏の伴奏がアラベスクの主和音で大きな弧を快速に描く。第1句後半は第4音を半音上げ、歌が『リディア』Op. 4 - No. 2, 1865頃のフレーズ（テーマB）の断片で暁を鮮やかに想起させる（譜例3）。第3句「呼び懇願するぼくのところへ飛んで帰ろうと」では減3、増3和音が伴奏低音の半音階上行 ré ré# mi mi#, sib si do do# 上にゼクエンスされる。原詩の第2、3節省略にもかかわらず、アラベスクは途切れることなく、原調の半音下の嬰へ長調へなんとなく場面転換する。後部のゆったりした3連音符のバルカロールのリズム、上行型アルペジオは、第25句「遅遅として進まぬ道程を揺するかのように」で七の和音の非終止的解決を連続させる。第25句「遅遅とし

No.3, 1892) では、歌と伴奏がそれぞれ別別の動きをしながら、詩のもつ雰囲気表現しているのに対し、フォーレの作品は詩のもつ節や句跨ぎを反響している。福井栄一郎氏の『ひそやかに』 En sourdine についての両作品（ドビッシーは『華やかな宴』第1集-No.1, 1892）の比較考察によると、「ドビッシーのしなやかな自由さに対し、フォーレの定型重視から、前者の作品がベルレーヌの詩には好ましい」と結論している。しかし『月の光』においても言えるが、むしろ新田博衛氏によれば、「歌曲の芸術的価値は原詩への適合度によって測られるか」、「原詩を基準とする時、その言語表現に最も適した音楽表現というものが必ず1つは存在するのか」と問題を提起されている²。実際に両作品を歌唱あるいは鑑賞してみると、両作品それぞれベルレーヌの原詩の雰囲気を損うことなく完成され、芸術歌曲としての価値は独創的で優劣つけがたく、正しく「近代フランス歌曲」melodie の傑作といえる。

本論では、フォーレの歌曲作品のほぼ中程、49曲目から57曲目にあたる歌曲集『優しき歌』が、「何よりも先ず音楽を…、色彩より陰影を…」と詠ったベルレーヌの詩から喚起されたイメージを、どのような音楽言語を用い、独創的な統一をさせたか分析考察する。

II 歌曲集『優しき歌』Op.61 -No.1～9


フォーレはベルレーヌの詩集『優しき歌』（第3詩集にあたり、序詩1編と21編の詩で、全編が婚約者マチルド・モテ・フレールヴィル Mathilde Mauté de Fleurville に対する純粹無垢な恋愛詩、1870）³から9編を選び、歌曲集として詩の順序を入れかえまとめた。

第1曲『後光さす聖女さま』Une Sainte en son aureole は詩集の第8番、8音綴、abab(mfmf)の交韻、4行を1節とする4節で構成されている。

詩1.

UNE Sainte en son aureole,	後光さす聖女さま、
Une Châtelaine en sa tour,	塔ある城のお妃さま、
Tout ce que contient la parole	すべては語り伝える
Humaine de grâce et d'amour ;	優雅さと愛との人の言葉

以下省略

曲は Allegretto con moto $\text{♩} = 138$ 変イ長調 $\frac{3}{4}$ 。テーマAを変容させながら、エピソードBとCをもつロンド形式 $AB\bar{A}CA\bar{B}\bar{A}$ 。A部前奏は軽やかに下降するフレーズがメヌエット風に奏され、第1句の伴奏高音部にくり返され（譜例1）、更に第2～4句の伴奏で変化記号を巧みに用いて表情に陰影をつける。B部の第5、6句「遠くの森に聴える黄金の角笛の音」では、角笛の音を描写するエミオール  がゼクエンスされ、第7、8句ではMi 旋法が優しくしかし威厳をもって3度音程の連続順次上行をする。C部の第11句「白鳥の無垢なる浄らかさに」では無雅気くベルレーヌの

フォーレの歌曲

歌曲集「優しき歌」作品61について

下山進

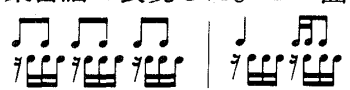
Les Mélodies de G. FAURÉ

Sur La bonne Chanson Op. 61

par susumu SHIMOYAMA.

I はじめに

G. フォーレ (1845～1924) は63年 (1860頃～1922) におよぶ作曲活動において、およそ 100曲の歌曲 *Mélodie* を残した。そのうち象徴派の詩人、P. ベルレーヌ (1844～96) の詩に17—『月の光』 *Clair de lune*, Op.46-No.2, 1887 (詩集『華やかな宴』 *Fêtes galantes*, 1869詩), 『スプリーン』 *Spleen*, Op. 51-No.3, 1889頃 (詩集『言葉なきロマンス』 *Romance sans paroles* の『忘れられし小唄』 *Ariettes oubliées*, 1874), 歌曲集『ベニスの五つの歌』 *Cinq mélodies de Venise*, Op. 58-No.1～5, 1890-第1曲『マンドリン』 *Mandoline*, 第2曲『ひそやかに』 *En sourdine*, 第4曲『クリメーヌに』 *A Clymène* (詩集『華やかな宴』, 第3曲『グリーン』 *Green* (『言葉なきロマンス』の詩集『水彩画』 *Aquarelles*), 第5曲『それは恍惚』 *C'est l'extase* (『忘れられし小唄』), 歌曲集『優しき歌』 *La bonne Chanson*, Op. 61-No.1～9, 1891～92, 『牢獄』 *Prison*, Op. 83-No.1, 1900 (詩集『英知』 *Sagesse III-No.6*, 1881) を作曲している。

フォーレはベルレーヌの詩との最初の出会い——『月の光』で、画家J. A. ワトー (1684～1724) の絵の世界を思わせるロココ風の淡く優雅な官能, すなわち華やかな宴を音楽言語で表現した。この曲はフォーレに珍しく、メヌエットと副題がつけられ、12小節におよぶ前奏,  のゼクエンス, エミオールで始まり、第5句「短旋法で」 *Sur le mode mineur* の古代旋法によるパレストリーナの対斜 (変ロ短調の第3音の半音上行), 第9句「静かな月の光に」 *Au calme clair de lune* や第10句「小鳥たちを夢みさせる」 *Qui fait rêver les oiseaux* の穏やかなアラベスク, V7→IV進行, 変化記号などを自由自在に用い、詩のもつ陰影を精緻に醸し出した、選ばれた作品、新らしい独自の歌曲様式を作り上げた。

C. ドビッシー (1862～1918) の同詩による作品 (歌曲集第1集『華やかな宴』 *Fêtes galantes I-*

